

平成25年度 第1回安曇野市水道事業運営審議会 会議概要

- 1 審議会名.....平成25年度 第1回水道事業運営審議会
- 2 日.....時.....平成25年6月3日(月).....午後2時40分から午後3時20分まで
- 3 会.....場.....安曇野市豊科総合支所 第2会議室
- 4 出席者.....等々力政文委員、市川節子委員、飯沼良明委員、百瀬重俊委員、務基和加代委員、
萩原賢司委員、窪田朗子委員、平林博委員、望月静美委員
- 5 市側出席者.....井口久登業務課長、猿田久雄上水道課長、水谷茂管理係長、
青柳治維持係長、奥村実庶務担当係長
- 6 公開・非公開の別.....公 開.....
- 7 傍聴人.....0人.....記者.....0人.....
- 8 会議概要作成年月日.....平成25年6月10日

協 議 事 項 等

(開会) 午後2時40分

- ・開会 (井口久登業務課長)
- ・あいさつ (等々力政文会長)

議事① 水道施設について

事務局

水道施設について本日視察をしていただいた。質問があればお願いしたい。

会 長

何か質問等あるか。

委 員

水道配水管は主にどのような個所に布設されているのか。

事務局

主には道路下に布設されている。明科地域については一部個人の敷地内に敷設されている個所もある。

委 員

明科地域は水道配水管の布設替えをした場合には、すべて道路下に布設されるのか。

事務局

水道事業発足前は簡易水道という形式で、地区で運営されていたものを水道事業で引き取ったという経過。

潮地区の一部で水道管を道路に入れ替えようという流れがあり、受益者が50軒くらいで3億円という費用がかかってしまう試算となった。山間部については漏水の箇所を絞り込んで修理に留めることで協力をいただくしかない。

委 員

配水場同士は相互の機能を補うことができるのか。

事務局

三郷地域については、上長尾と野沢に配水池を設けて、井戸からの送水も行う。黒沢川の表流水が減ってきた時に井戸の取水を増加させるということで、経費的にも一番安い形で、現在は運用している。また片方の配水池の機能が低下すると流通管といって普段は閉めてあるが、そのバルブを開けて相互の配水池の機能を補っている。ただ黒沢のダムより上流で濁ってしまうと今の配水池を相互に補う機能も維持することはできない。

委員

他の地域の配水池の連携はどうなっているのか。

事務局

それぞれの地域では地域ごとに水道施設が独立で建設されている。今回豊科と三郷の水道管を繋げて豊科の水を三郷で使える、要するに両地域で水道水が使える状態にするが、現行では明科の水を豊科では使えない。将来的に安曇野市の水道事業を統一して一つにした時には水道管を連結し合って水道水を融通し合うことが可能と思われる。

委員

水道ビジョンは、どのくらいの期間を目安に作成するのか。

事務局

10年間を一区切りにして、平成19・20年の2年間で作成して、水道事業運営審議会の委員さんに審議をしていただいた中で、平成30年までの予定となっている。

委員

明科地域の漏水修繕計画などはあるのか。

事務局

明科地域は水道管がどこに布設してあるのか把握ができていない箇所もあるが、系統ごとの漏水量の把握をしていきたい。具体的には計画はないが漏水量が多いため一気に修繕工事を進めると莫大な工事費がかかってしまうので、順次進める。

会長

安曇野市水道事業として喫緊の課題を挙げるとしたら、どのような課題か。

事務局

まずは三郷の水道水源転換。それから老朽管の更新だが、計画的に進めていきたい。それから主要な配水池には緊急遮断弁を設置したいと考えている。

また超過料金を含めたうえでの料金統一については、できるだけ早い時期に検討をしたいと考えている。

委員

地下水条例と水道事業との関連はどのようになっているのか。

事務局

担当部署は市民環境部となり地下水への涵養などの対策を講じているが、その全体の中で水道事業でも係わりが生じている。

また地下水の利用者が平等の負担をし合うということになっている。その負担金で地下水への涵養をするが、現在では安曇野市の水道事業でいくらの負担金ということが明確にはなって

いない。将来的に負担金を支払う場合は水道料金への反映となる。

委 員

水道設備の更新や修繕工事費などは水道事業会計から捻出されるということか。

事務局

そのとおり。

会長挨拶の後、閉会。

会議終了 午後3時20分